

農福連携 取組事例集 Ver.3

「農業」と「福祉」がつながって



岡山を元気に！

岡山県・岡山県農福連携サポートセンター

はじめに

農福連携は、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる取組であると注目されています。

農福連携の新たな取組や現在取り組まれている方の参考に、また、農業分野と福祉分野のお互いがWin・Winの取組となるように、これまで2021年3月、2022年3月にそれぞれ事例集を取りまとめたところですが、このたび、新たに岡山県内で実践されている6事例について、概要や農福連携の効果・ポイントを中心に取りまとめました。

農福連携の取組に関心をもつ農業者・福祉事業者をはじめとする皆様に参考としていただければ幸いです。

2023年3月

目次

はじめに・目次 1
 事例集の利用に当たって 2

農業主体型

農福連携で大規模苗生産に取り組む農業法人
 (株)グリーンプラネット尾崎 (岡山市東区草ヶ部) 3

連携型

農業関連会社との連携による周年就労の実現
 社会福祉法人 同仁会 (玉野市木目) 5

福祉主体型

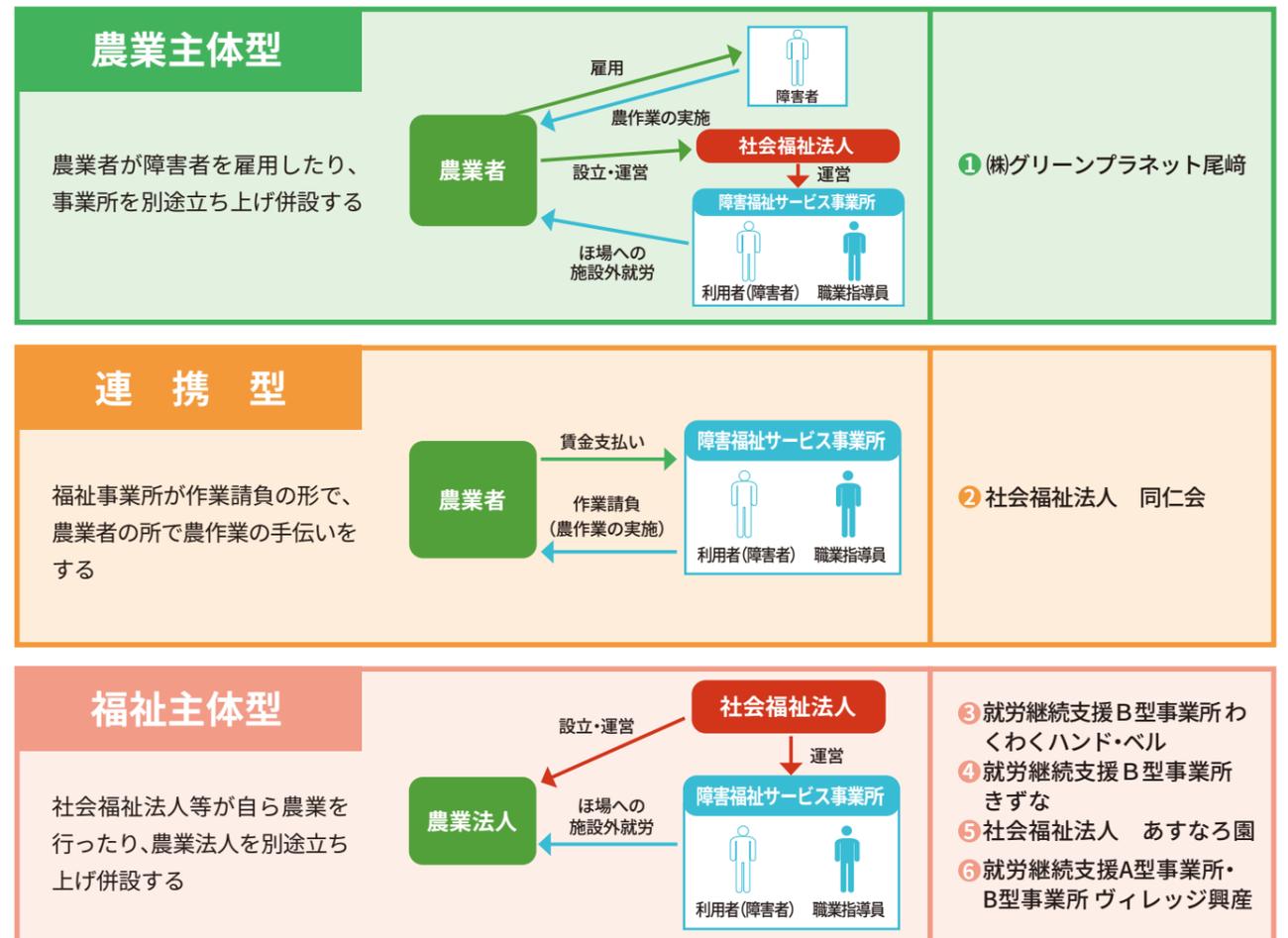
地域に根ざした6次産業化の取組
 就労継続支援B型事業所わくわくハンド・ベル (総社市真壁) 7
 菌床きのご類による周年・安定的就労の実現
 就労継続支援B型事業所 きずな (勝田郡勝央町美野) 9
 黒大豆、野菜の6次産業化を目指して
 社会福祉法人 あすなる園 (小田郡矢掛町矢掛) 11
 食肉加工や園芸作業による多様な取組
 就労継続支援A型事業所・B型事業所 ヴィレッジ興産 (笠岡市新賀) 13

事例集の利用に当たって

農福連携の取組内容は多種多様であり、取組数が増えるにつれて、取組パターンも多様化してきています。そのような状況下で、農福連携の取組主体等の違いにより、次の5つのパターンに区分されています。

- 1 農業者(法人含む)が障害者を雇用、または福祉事業所を別途立ち上げ併設する「農業主体型」
- 2 福祉事業所が作業請負の形で農業者を支援する「連携型」
- 3 福祉作業所が農業に参入する「福祉主体型」
- 4 企業が子会社を設置して農業分野で障害者を雇用する「企業出資型」
- 5 障害者の身体・精神状態を良くするために、病院、NPO法人等で農作業を行う「園芸療发型」

本事例集では、この5つのパターンのなかで比較的多くみられ、しかも「農業」での担い手不足の解消、「福祉」での就労機会の創出と工賃(賃金)の向上が直接的に期待できる3つのパターンの事例を対象としています。



注)1. パターンは「農福連携技術支援者育成研修」テキスト(農林水産省)を参考にした。
 2. 事例調査はヒアリング調査に基づいて作成した。担当者は次のとおりである。
 農研機構・西日本農業研究センター 研究員 中本英里: ⑥
 岡山県農福連携サポートセンター サポーター 坂本定禎: ④
 岡山県農福連携サポートセンター アドバイザー 桑田和哲: ②、⑤
 岡山県農福連携サポートセンター アドバイザー 村越好信: ①、③

農福連携で大規模苗生産に 取り組む農業法人

(株)グリーン・プラネット尾崎 (岡山市東区草ヶ部)

視察受入れ 可

取組みの契機と経過

- ①長年にわたりブドウ経営をしていたが、1990年代のガーデンニングブームを受け、1997年にグリーン・プラネット尾崎を設立し、花壇用苗の生産・販売を開始した。
- ②当初の経営規模は10～20a程度であったが、苗生産は細かな手作業が多く、労働力が必要なため家族経営では規模拡大が進まなかった。
- ③2002年に知り合いの福祉作業所職員から障害者2名の雇用を依頼され、トレーにポットを入れる「ポット挿し」作業等をしてもらったところ、労働力として期待できたことをきっかけに農福の取組を始めた。
- ④当初は、精神障害者社会適応訓練事業の「職親」として障害者を雇用していたが、受け入れ人数が増えたことや障害者の就労意欲が予想以上に高かったことなどから、2008年に特定非営利活動法人 ドリーム・プラネットを設立し、同年に就労継続支援A型事業所 ドリーム・プラネットを開設した。
- ⑤当事業所の利用者が施設外就労として苗生産の全般を担い栽培面積も80a(2008年)に拡大し、現在(2022年)は1.5haまで規模拡大を図っている。

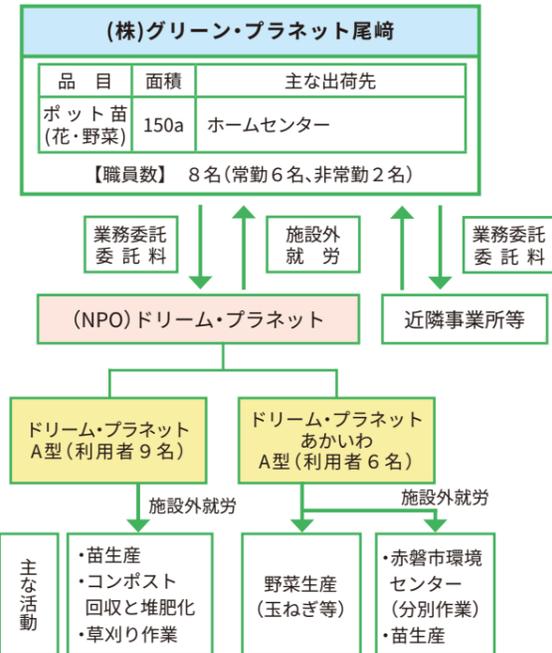


図 組織体制と経営概要

経営の概要と特徴

- ①販路開拓では、当初、市場に来ているバイヤーや花屋、ホームセンター等に積極的にトップセールスをしたが、某ホームセンターから「個人農家は納品数量を守ってくれないのでダメだ」と断られた。しかし、「約束を守るから」と1年間の契約にこぎつけ、約束どおり納品し信用を得ることができ、その後、系列店舗に拡大した。
- ②毎日、朝と午後の作業前にミーティングを行い、(株)グリーン・プラネット尾崎の社長自らが支援員(利用者も同席)に対して作業内容を具体的に書面や口頭で指示

- ③社長はサービス管理責任者研修の受講などで得た幅広い知識や長年の農福の経験を活かし、その日の利用者の体調に合った作業を配分するなど、利用者寄り添った役割分担や作業内容を依頼している。
- ④利用者が機械作業を除く全般的な作業を担っている。具体的には表のとおり作業を細分化し、役割分担により、工夫をしながら効率的に作業をしている。

表 花苗作業の役割分担及び作業上の工夫点等

作業内容	播種	ポット挿し	土入れ	苗の水通し	苗の植込み	肥入れ	花の切り込み	千鳥抜き	六つ抜き	花寄せ
	使用機械	播種機		ポッティング機						
職員	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
利用者	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
作業上の工夫点等	①播種は、機械操作を職員が確認しながら行う。②トレーにポットを挿す「ポット挿し」作業は、利用者の特性に合わせた方法で行っている。③苗の植込みは、サンプルを作って見せている。④苗の生育に合わせてトレーに苗ポットを千鳥に配置したり、6ポットを抜く作業をするが、図を描いて示している。									
作業内容	花集め花組み	かん水	苗植え	ハウスに運び込み	運搬納品	草抜き	ポット片付け	ハウス片付け	トレー洗浄・消毒	ビニール張り
	使用機械			フォークリフト	自動車					
職員	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎
利用者	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○
作業上の工夫点等	⑤かん水は注意が必要なため、根気強く繰り返し指示している。⑥運搬・納品はモチベーションアップのため職員に同行し、売れ行き等も確認している。⑦トレーの洗浄・消毒は、殺菌剤の使用に注意が必要なため、繰り返し指示している。⑧ビニール張りは、体力や性格に配慮して行っている。									

注「◎」は主担当、「○」は補助者である。

農福連携の効果とポイント

- ①安全面や作業面でリスクが想定される場合は、事前に対策を講じるように心掛けている。
- ②作業を細分化することでパターン化しやすくなり、障害者には比較的難しい作業でもできるようになっている。
- ③知的障害者にはパターン化された単純作業などを、精神障害者には難易度の高い作業でも長時間労働にならないよう注意しつつノルマを設けず作業するなど、障害特性に応じた方法で作業効率の向上と快適な作業環境を実現している。
- ④30分間刻みで、いつ出勤・退社してもよい方式を取っており、身体と精神に負担が少ない勤務方式で長期雇用を実現している。
- ⑤普段から個々の利用者の特性を把握しており、急遽の休暇・早退等に対してもスムーズに人の入替を行い、利用者を3～4人ずつにグループ化し作業を円滑に実施している。
- ⑥苗生産は労働力がかかるが、作業を細分化し、利用者の特性・能力に合った作業に従事してもらうことで効率よく作業を行うことにより規模拡大を図っている。
- ⑦販路は県内の主要なホームセンターの全店などに拡大し、安定的な大規模花苗生産を実現している。
- ⑧賃金(2021年度)は、岡山県の就労継続支援A型事業所の平均賃金及び最低賃金を上回る高水準を実現している。



手際よくトレーにポットを挿し込む



粒状肥料を1粒ずつ入れていく



生育に合わせてポットを千鳥に配置(千鳥抜き)



花の寄せ植え作業

農業関連会社との連携による 周年就労の実現

社会福祉法人 同仁会 (玉野市木目)
https://www.dojinkai-nozomi.jp/

視察受入れ 可

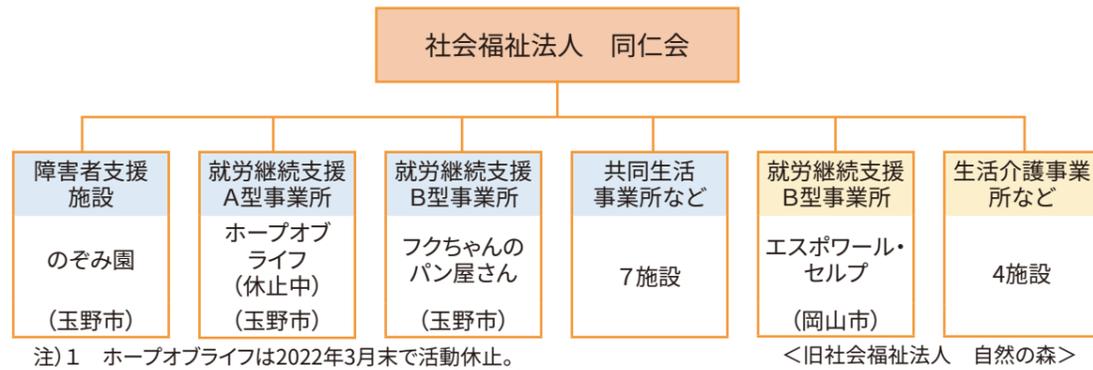
取組みの契機と経過

- ①1988年、社会福祉法人 同仁会が設立され、翌年、障害者支援施設 のぞみ園が開設された。
- ②2012年、多機能型事業所 ホープオブライフが開設され、米・野菜づくりと昼食弁当の製造が開始された。
- ③2021年、岡山県農福連携サポートセンターの働きかけで職場説明会に参加したホープオブライフは、間口ウエストロジ(株) (以下、間口WLという)が行っているJAなす選果場の作業に参加するようになった。
- ④間口WLとの話し合いにより、なす選果作業(11~6月)

が終了した後も、もも選果場(岡山市北区芳賀、7~8月)、ぶどう選果場(高梁市津川町、9~10月)での作業を続けることで、ほぼ1年間を通じた施設外就労を実現した。

なお、間口WLは、県内JAから選果場の運営を委託されている流通関連会社である。

⑤さらに、なす選果場への出荷量が比較的少ない期間は、白菜収穫作業(岡山市西大寺朝日、瀬戸内市牛窓町、12~2月)にも参加している。



注) 1 ホープオブライフは2022年3月末で活動休止。
2 ホープオブライフの利用者は、のぞみ園職員に移籍した。

図 同仁会グループの組織体制

経営の概要と特徴

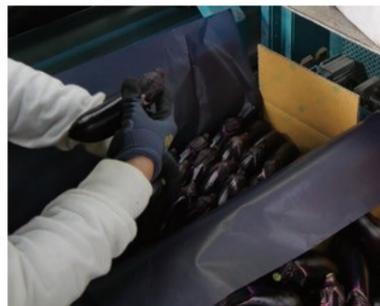
- ①ホープオブライフでは近隣の耕作放棄地140aを借地(同仁会として利用権設定)して、米や野菜の栽培を行ってきた。自家生産した米や野菜を使用して、手づくり弁当「フクちゃん弁当」を製造し、同仁会グループの施設や地域に提供してきた。
- ②ホープオブライフは2022年3月末で事業休止となった

が、選果場での業務はのぞみ園として継続している。

③農業関連部門に参加している15名(職員9名、利用者6名)は体力のある若い人が多い。このため、選果場での出荷箱のパレット積み(手持ち作業)や白菜収穫(中腰での選果・コンテナ詰め)など体力を要する作業が多いが、十分に対応できている。



選果ラインになすを並べる作業



箱詰め作業
(なすの詰め方には規格別のルールがある)



加工用ももを受取り、伝票処理、出荷準備作業を行う



等級付けが終わった出荷箱を規格別に積み上げる
(5kg箱の場合、房数と等級により28規格がある)



大きさと重量によって6つの規格に分ける

- ④安全性への配慮事項として、ぶどう選果場内ではフォークリフトが運行しているが、作業エリア内にフォークリフトが動いていると作業を中断する。また、白菜収穫作業では、刃物を使った株切り作業には参加しない。

- ⑤遠隔地への出勤については、労働規約に変則労働時間を定めており、本人や家族の了解により、早朝出勤(玉野市の事業所に6時30分)が可能となっている。

表 のぞみ園の周年的作業請負(2022年)

作業区分・場所	作業時期												作業内容	参加者		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
なす選果場 (岡山市南区七区)														←	①バケツ(選果ラインになすを並べる) ②計量・袋詰め ③箱詰め(規格別に決められた方法で詰めること、目視で検品)	5名
もも選果場 (岡山市北区芳賀)														↔	①B品の受付、伝票確認 ②ジュース用、缶詰用の仕分け ③梱包、パレットへの積み込み	6名
ぶどう選果場 (高梁市津川町)														↔	①荷受け (トラックから選果ライン入口に配置) ②パレットへの積み込み (規格別にラインから手持ちで移動) (5kg箱の場合、品質と房数で28規格)	6名
白菜収穫作業 (瀬戸内市牛窓町他)														←	①計量(大きさと重量による6規格) ②コンテナへの積み込み	5名

農福連携の効果とポイント

- ①なす選果作業から始まった取組がもも・ぶどう選果場に拡大することにより、作業請負の周年体系が出来上がった。これは、人材の確保を必要としていた間口WLからの要請に応える形で施設外就労の場が広がったものである。
- ②就労支援のため利用者に適した業務を探すことが大切であり、様々な作業にチャレンジできることに魅力があった。耕作放棄地を活用した米や野菜づくりだけでな

く、一般の作業員に交じって様々な業務を体験する機会が広がっている。

③利用者にとっても、日々持ち込まれる生産物を適切に処理して、出荷量が増える繁忙期を乗りきること達成感を感じたこと、さらにA型事業所に相応しい賃金(作業量に応じてパート雇用者と同等の賃金支給)がモチベーションの維持に役立っている。

間口WL岡山営業所 藤原所長さんのコメント

- ①同仁会の人たちは、貴重な人材であり、若くて体力があり、歓迎しています。また、作業指示や注意事項は同仁会指導員を通じて徹底されており、出荷ミスもなく、安心して作業を任せられています。
- ②各選果場では40~90名のパート従業員が働いています。JAが運営していた頃からの従業員は高齢化により3~4割まで減少しており、人材確保が課題となっています。同仁会による作業割合は現在1割程度ですが、今後2割程

度まで増やして欲しいと期待しています。

③簡単な作業から始めて、その能力や特性に応じて新しい作業にもチャレンジしてもらっています。例えば、なす選果場での箱詰め作業では、目視による検品作業(小さな傷などのチェック)を行いながら、決められた方法で箱詰めを行う必要がありますが、今年からは箱詰め作業でも活躍してくれています。

地域に根ざした6次産業化の取組

就労継続支援B型事業所 わくわくハンド・ベル (総社市真壁)

<https://kinyoukai.or.jp/>

視察受入れ 可

取組みの契機と経過

- ①当事業所は、2004年に社会福祉法人 金曜会が作業や生活支援などを通じて、社会参加・自立及び就労移行に必要な支援をすることを目的に開設した就労継続支援B型事業所である。
- ②当事業所では大豆、野菜の農業生産と大豆を利用した豆腐、菓子等の加工、総社市からの受託による公園管理、民間企業内での作業を行っている。
- ③農業生産や加工は、グループ内の他の事業所で取り組んでいたことや理事長が地産地消の豆腐作りを積極的に導入したい意向を持っていたことから、当事業所の近隣で長年大豆栽培をしている宮農組合の農地を期間借地し、大豆栽培に取り組むこととした。
- ④大豆は豆腐だけでなく、きなこ、おからの焼き菓子などを作る6次産業化に取り組むとともに、事業所の隣接ほ場では野菜も栽培し、事業所収入の3~4割を確保している。

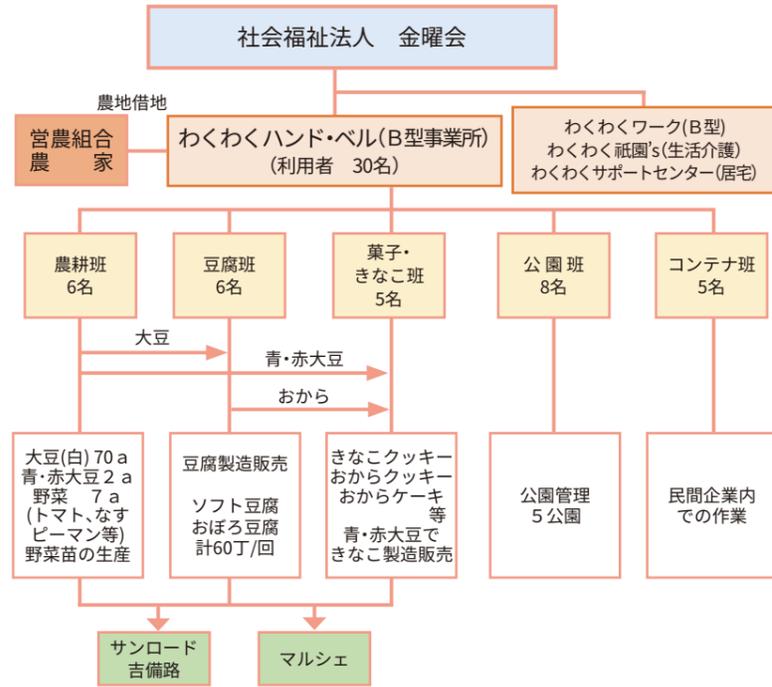


図 組織体制

経営の概要と特徴

- ①利用者は知的障害者を中心に30名で、農耕班(6名)、豆腐班(6名)、菓子・きなこ班(5名)などを設けている。
- ②農耕班が生産した大豆で豆腐、きなこやおからクッキー、おからケーキ、きなこ入りケーキなどの焼き菓子を作り、
- ③利用者は、大豆栽培では除草作業を、青大豆・赤大豆の栽培では除草に加え、収穫(ハサミで刈取)、天日乾燥し

サンロード吉備路(サン直広場)や市役所で月2回行われているマルシェ等で販売している。



大豆ほ場の除草作業



大豆の脱穀作業



収穫の長さを治具で確認



野菜の袋詰め作業



豆腐製造器具の洗浄作業

た後、脱粒機で脱穀を行っている。野菜ではトマト、なす、ピーマン、たまねぎなどを栽培し、指導員の指導のもと、ほぼ全ての作業を行っている。

④豆腐作りでは多くの機械や道具を使用するが、衛生管理

上も非常に重要な洗浄を随時、丁寧に行っている。また、機械・器具が多いなかでの作業のため、他の人の後ろを通るときやホースを床に延ばしたときなどに利用者や職員が相互に声掛けし、事故防止に努めている。

表 作業内容と役割分担及び作業上の工夫点等

青大豆・赤大豆	作業内容	耕起	播種	除草剤 農業散布	除草	中耕 土寄せ	収穫	乾燥	脱穀	選別	袋詰め		
				6月		7・8月	7・8月	11月	11月				
	使用機械	トラクタ	播種機	ブーム スプレーヤ	人力	中耕機	ハサミ		脱粒機		計量器		
	利用者				◎		◎	◎	◎	◎	◎		
	職員	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	○		
	作業上の工夫点等	・除草は、取る草の葉の形の現物を見せながら説明する。 ・脱穀は、脱粒機で脱穀をする。機械にかけられる利用者に皆が協力して大豆を渡す。 ・選別は、除去する大豆(紫斑病等)の現物を見せて説明する。 ・収穫は、ハサミで株を刈り取る。											
豆腐	作業内容	大豆 選別	大豆 浸漬	石臼 すり潰し	豆乳 搾り	攪拌 凝固	おぼろ 作り	豆腐 作り	バック 包装	機械器具 の洗浄	おから 袋詰め	ラベル 貼り	納品
	使用機械			ミキサー	搾搾機				包装机				
	利用者	◎	○							◎	◎	◎	○
	職員	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎
	作業上の工夫点等	・利用者が機械・器具を洗浄後、その都度、職員に洗浄漏れがないか確認してもらう。 ・バック包装後の豆腐を運ぶときは、1丁ずつ運ぶ(重ねると濡れているので滑り落ちることがあるため)。											

注「◎」は主担当、「○」は補助者である。

農福連携の効果とポイント

- ①大豆(白)を基幹に青大豆、赤大豆、野菜の栽培を行うとともに、その生産物で豆腐やお菓子などを製造し、主に地元直売所で販売するなど「地域に根ざした6次産業化」に取り組む、収益の向上と安定化を図っている。
- ②大豆や野菜栽培では、繰り返し指示内容を伝え、出来たときはしっかり褒めることで、作業の正確さやモチベーションが維持されている。
- ③大豆の草取りは、取る雑草の現物を見せ、葉の形で見分けるように指示することでミス無く効率的な作業ができています。
- ④キュウリ、ナスの収穫は、収穫基準の長さを箸で作り、必要に応じて確認しながら収穫することで、適期収穫ができています。
- ⑤豆腐製造では、利用者が機械・器具を洗浄後、その都度、職員に洗浄漏れがないか確認してもらうことで衛生管理の徹底ができています。
- ⑥2021年度に実施された岡山県主催ノウフク応援Webマルシェの加工品部門で当事業所の「ソフト豆腐」が最優秀賞を受賞している。

菌床きのこ類による 周年・安定的就労の実現

就労継続支援B型事業所 きずな (勝田郡勝央町美野)
https://www.shoumei-fukushikai.or.jp

視察受入れ 可

取組みの契機と経過

- ①当社会福祉法人は障害福祉事業と介護福祉事業を行っており、2002年に地域の要望と勝央町の支援を得て知的障害者通所更生施設きずなを開設した。そして、2010年、障害者自立支援法(当時)により、障害者の生活支援・就労支援を目的とした生活介護事業所と就労継続支援B型事業所に移行した。
- ②当事業所は当初、菌床しいたけ、なす、水稻の栽培に加えてクッキー等の製菓を手掛けていたが、2014年にしいたけ用の空調ビニールハウスを新設し、2016年にはビニールハウスの横にきのこ類の加工施設等を新設した。
- ③それを契機に、利用者が年間を通して主体的に活

動できるよう、菌床きのこ類の生産・加工に一元化した。

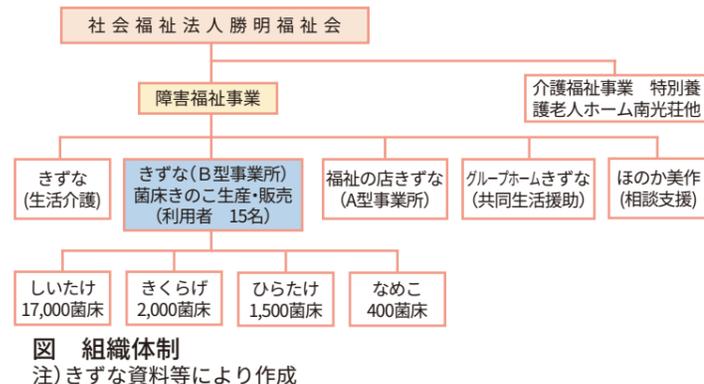


図 組織体制
注) きずな資料等により作成

経営の概要と特徴

- ①きのこ類は全て菌床栽培であり、3棟のビニールハウスでしいたけを基幹にきくらげ、ひらたけ、なめこを組み合わせる周年的に栽培し、生産量は約25tである。なお、菌床はメーカーから購入している。
- ②しいたけは2棟のビニールハウスで栽培している。1棟は24時間の温度調整が可能な空調ハウスにより、6,000菌床を半年ごとに入れ替えながら一年を通じて栽培し、他の1棟は暖房設備のみのハウスで秋から翌年春まで5,000菌床を栽培している。また、しいたけは生製品だけでなく、乾燥機による乾燥製品も生産・販売している。
- ③他の1棟のビニールハウスではきくらげを7月から10月、ひらたけを11月から2月の期間栽培し、きくらげについては生製品だけでなく乾燥製品も生産・販売している。2021年度からなめこの栽培も始め、今後、菌床数を増やして安定的に生産していく予定である。
- ④きのこ類は、生産だけでなく刻み加工等6次産業化にも取り組み、販売ルートも道の駅、スーパー、直売所、アンテナショップ、学校給食等多元化している。
- ⑤利用者は毎日、作業開始前に利用者同士で話し合ってその日の作業の役割分担を自分達で決め、各自が責任感とプライドを持ってその日の作業に取り組める



しいたけの菌床栽培



しいたけときくらげ



治具を使用したしいたけの適期収穫



計量数量を記入したカードを置いて計量・袋詰

ようにしている。
⑥地域のイベントに参加し、生製品等の販売を通じて

地域の人々と交流する機会を持ち、社会との結びつきや商品販売の流れを実感できるようにしている。

表 きのこ類の生産・販売(2021年)

品目	生産量(t)	月別収穫・出荷時期												主な機械・施設	主な販売先
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
しいたけ	20	←————→												定温(空調)ハウス1棟96㎡・空調施設、暖房ハウス1棟96㎡、きくらげハウス1棟96㎡、乾燥機1台、高圧殺菌釜、ボイラー、作業舎他、高圧洗浄機等	近隣の道の駅、スーパー、直売所(大阪箕面市)、アンテナショップ(大阪市天王寺区)、地元の保育・小・中学各校給食、仲卸売店(大阪府日田市)、法人内等
きくらげ	3.1	————→													
ひらたけ	1.3	————→													
なめこ	0.2	————→													

表 作業内容と役割分担及び作業上の工夫点等

	作業内容	役割分担															
		菌床搬入	袋カット	水入れ	採取	加圧散水	パック浸水	選別	足切り	袋詰め(生)	バーコード貼り	出荷先別コンテナ	出荷	スライス	乾燥	袋詰め(乾燥)	廃床処理
しいたけ	使用機械		カッター			高圧洗浄機				計量器				スライサー	乾燥機	計量器シーラー	
	職員	◎	◎		○	○		◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
きくらげ・ひらたけ・なめこ	使用機械								天日	乾燥機	計量器シーラー	計量器					
	職員	◎	◎	◎	○				◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
作業上の工夫点等		・危険を伴う機械作業は職員、比較的安全な手作業等は利用者というように役割を分担している。 ・計量器による袋詰めでは、出荷先店舗毎のグラム数(Og~△g)を書いた小カードを手元に置いてそれを確認しながら行っている。 ・加圧散水、パック浸水では、1日毎の作業予定表を職員が作成し、利用者は各自がそれを確認したうえで作業をしている。															

注)「◎」は主担当、「○」は補助者である。

農福連携の効果とポイント

- ①経営の作目は、菌床栽培に特化したきのこ類で栽培技術の高度化を図っている。また、生産から乾燥・加工(刻み加工等)、販売による6次産業化に取り組み、収益の向上・安定化を図っている。
- ②しいたけを基幹に、他のきのこ類を組み合わせる周年の利用を確立し、施設稼働率を高めている。
- ③しいたけ用の空調ビニールハウスでは、一年を通して温度調整が可能であるため(例、日中の温度が常に約22℃)、利用者は年間を通じて快適な環境で作業をすることができる。
- ④利用者同士がお互いを思いやり、協力し合って作業ができるよう、職員が意識して声掛け等を行うと同時にサポートに徹して利用者の主体性を尊重している。
- ⑤就労アセスメントシートや工賃評価表を作成し、利用者の作業適性や課題を見極めている。
- ⑥販売店舗や学校給食等への商品の安定的な供給や、地域イベントへの参加により、地域社会からの理解と支援が広がり「きずなのしいたけ」等が認知され、年々販売量が増大している。

黒大豆、野菜の6次産業化を目指して

社会福祉法人 あすなる園 (小田郡矢掛町矢掛)
http://v1.yct.ne.jp/~asu-naro/

視察受入れ 可

取組みの契機と経過

- 1987年、矢掛町手をつなぐ親の会作業所 あすなる園として活動を開始し、2003年、社会福祉法人化した。2012年に就労継続支援B型 あすなる園に移行した。
- 2016年、施設の新築・移転に伴い施設隣地の農地(7a)を借地して農作業部門に着手、タマネギやなすなど野菜類の栽培を開始した。
- 同年から矢掛町(農業委員会)などの働きかけにより、バターナッツかぼちゃの栽培を始め、現在も継続している。黒大豆は、味噌づくりの開始にあわせて、高品質で特徴的な味噌の原料確保のために2020年から栽培しており、栽培面積は25aである。
- 2020年、念願であった訓練・作業棟を整備し、地元産の米や黒大豆を使用した味噌づくりを始めた。また、食品乾燥機の導入を契機に、バターナッツかぼちゃのパウダーやドライフルーツも製造している。
- 2022年、矢掛町地域活動支援センター さくら(2017年、矢掛町から管理受託)が宿場町矢掛(旧山陽道)の空き家をリノベーションし新施設として再スタートした。同センターの利用者が商品の販売活動を行う商店があり、あすなる園の農産加工品を始め、地元産の農産物や生活用品の販売拠点として地域の活性化を目指している。

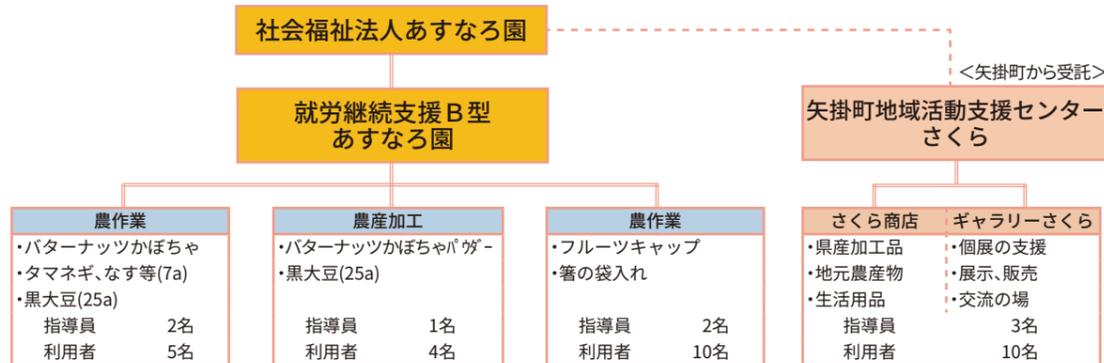


図 あすなる園の活動の概況

経営の概要と特徴

- 施設の新築移転(隣地の農地)や訓練・作業棟の整備(味噌などの原料確保)に伴い、農作業部門の活動が拡大してきた。農作業体験がある利用者がいたこと、屋外作業を行うことで開放的な環境づくりのため、農作業の取組が始まった。農作業としては、味噌原料となる黒大豆栽培が主な業務であるが、学校給食用とし



バターナッツかぼちゃの栽培と加工品(パウダー)



- タマネギやかぼちゃも栽培している。
- 農作業上の安全性を考慮して、トラクター、管理機、刈払機など機械作業は指導員が行い、機械作業中、利用者はほ場内への立ち入りを禁止としている。
- 黒大豆のほ場は施設からはやや離れているが、農地を守りたい意識が強く、知人が所有する農地を借地している。
- 黒豆の米味噌は、原料に町内産の黒大豆と米を使用しており、香りの強い高品質の味噌としてこだわりを持って製造している。
- かぼちゃパウダーは、地域特産物づくりの一環として裁

- 培が始まったバターナッツかぼちゃの6次産業化を目指して開発されたものである。現在、業務用の販路開拓や乾燥タマネギとの混合化など、商品のブランド力のアップを検討している。
- あすなる園では、今後、矢掛町地域活動支援センターさくらの活動開始(定員10名、常時活動者5~6名)によって、あすなる園の農産物、農産加工品に加えて、地元の農業者が生産した農産物などを販売して工賃向上を図る計画である。また、地元スーパーの撤退に伴い、高齢世帯の生活防衛のための受注販売や個別宅配サービスなども検討している。

表 作業内容と役割分担及び作業上の工夫点等

作業内容	耕起	施肥	畝立て	マルチ張り	播種・定植	かん水	除草	農薬散布	収穫	出荷準備
使用機械	トラクター		トラクター	管理機			刈払機	散布機		
職員	◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○
利用者		◎		○	◎	◎	◎手取り		◎	◎
配慮事項等	①翌日の作業予定はホワイトボードを使用し、視覚を併用することで認知の徹底を図っている。 ②トラクター、管理機、刈払機、散布機の使用中には、利用者はほ場内に入らない。 (機械整備により軽労化が実現したが、それ以前は職員のトラクターを借用し、畝立て作業などは手作業でしていた。) ③播種、苗の定植、補植作業は、間隔を定めた「目安棒」を使用している。 ④黒大豆ほ場は施設から離れているため、ほ場近くの工場のトイレを借りている。									

注「◎」は主担当、「○」は補助者である。

農福連携の効果とポイント

- 施設の新築移転や訓練・作業棟の整備を契機に、農作業や農産加工が利用者の就労訓練の主要な柱となっている。さらに、さくら商店の運営に伴い、生産・加工・販売の6次産業化の推進体制が整い、工賃向上に向けた取組が強化された。
- 農作業に取組む意義・メリットとしては、JAや地域住民との交流、さらに解放された空間での農作業が心身の健康管理に役立っている。地域の高齢者が農作物の生育状況を見守ってくれており、アドバイスをを受けたり、一緒に作業を行うことで栽培管理が上達した。
- 農作業に従事する利用者は、本人の希望や農作業体験の有無などを参考にして決めており、20歳代から70歳代の利用者5名が栽培管理作業(機械使用を除く)に幅広く参加している。利用者は知的障害が多いため、次のような配慮を行っている。
 - 作業予定の周知にはホワイトボード(文字)を使用
 - 農業機械を使用する際の安全性の配慮(利用者はほ場内への立ち入り禁止)
 - 播種・定植作業での用具(間隔を示す目安棒)の使用など



黒豆の米みそづくりと販売拠点のさくら商店

食肉加工や園芸作業による多様な取組

就労継続支援A型事業所・B型事業所ヴィレッジ興産(笠岡市新賀)
https://tokiwa5.wixsite.com/keigyokai/village

視察受入れ 可
(繁忙期は対応不可)

取組みの契機と経過

- ①ヴィレッジ興産は、2012年に社会福祉法人敬業会が開設した多機能型事業所である。就労継続支援A型事業所とB型事業所があり、「ときわヴィレッジ」を活動の拠点としている。
- ②運営法人の敬業会は、笠岡市に本部を置き、笠岡市、倉敷市、浅口市、矢掛町で1施設7事業所を運営している。1981年の「ときわ学園」(知的障害者入所更生施設)開設が事業の始まりであり、様々な利用者がライフステージに合わせた地域生活を送ることを目標の一つとしている。
- ③活動拠点の一つである「ときわヴィレッジ」は、笠岡市新賀の「旧岡山県農業試験場」を運営法人が敷地ごと買い取って命名した場所の名称である。試験場から引き継いだぶどう園は、2018年に新たに8a拡大させ、現在約34aとなっている。7~8種類のぶどうを栽培し生食用と

して販売している。その他に、少量のももやミカンを生産している。
④収益確保を目指す過程で、前理事長が、旧三田屋本店倉敷店の店主からハム製造の技術を伝授してもらう機会があり、これを機に2012年から食肉加工も開始した。開始当初は十分な利益が上がりなかったが、5年目以降は黒字に転じ、現在、開始当初の約1.5倍の製造量を確保している。

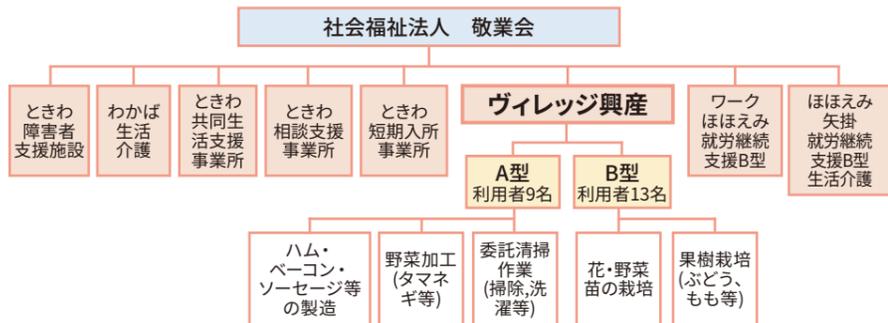


図 組織体制

経営の概要と特徴

- ①A型事業で行う食肉加工では、開設初年時にハムとベーコン、2年目にソーセージ、4年目にスモークチキンといったように、商品の種類を増やしてきた。道の駅や近隣の直売所で販売しているほか、企業等への売り込み、ネットの活用等により販路拡大に努めている。現在、ハムだけで年間約1,600万円を売上げている。
- ②受託加工にも力を入れており、秘伝のレシピによるドレッシングや、個別に依頼を受けて、チャーシューなども製造する場合がある。

③食肉加工場は食品衛生上、低温を保つ必要がある。このため、人員配置では低温下で作業が可能であること、衛生面で問題がないことが条件となる。そのため、現在A型事業の利用者9名のうち、5名のみが食肉加工を担当する作業体制となっている。



ハムの梱包作業
(ヴィレッジ興産HPより)



ハム製品のラベル貼り



ぶどう園場
(ヴィレッジ興産HPより)



寄せ植えの商品

- ④B型事業で生産しているぶどうは、加温しない露地栽培で、8月中旬から10月初旬ごろにかけて樹で熟してから収穫する。商品は、2kg箱の贈答用2,700円と、贈答用以外1,700円の2種類があり、販路は直接販売のみである。安価で味が良いと評判ですぐに売り切れる。
- ⑤花と野菜の苗も直接販売が中心で、ぶどうを買いに来た顧客への販売や電話注文による購入がほとんどであるが、一部は市場にも出荷している。花は、寄せ植えて販売している。
- ⑥その他に、法人内の作業を請け負う形で、お菓子(シ

フォンケーキ)作りやお弁当作りなどにも取り組んでいる。これらの商品は、ハムやぶどうを買いに来た顧客が注文して購入している。

表 作業内容と役割分担及び作業上の工夫点等(A型)

作業内容	整形	塩せき	充てん	乾燥燻製	スライス	包装
職員(人)	2	2	2	2	2	2
利用者(人)	0	3	2	2	1	5
役割	-	○	◎	◎	◎	◎
作業上の工夫点等	・衣類の調整について職員から指示している。 ・包装は、袋入れ、真空パック、ラベル貼りに分業化し、適性をみて、できる作業に関わってもらっている。 ・梱包後の出荷(最終工程)は職員が担当する。					

注「◎」は主担当、「○」は補助者である。

表 作業内容と役割分担及び作業上の工夫点等(B型)

作業内容	剪定	施肥	土壌管理	防除	ビニール被覆	新梢管理	ジベレリン処理	花穂管理	収穫	出荷
職員(人)	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2
利用者(人)	2	4	1	1	9	1	1	1	1	1
役割	○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○
作業上の工夫点等	・利用者用にワイヤー草刈り機を準備している。 ・作業範囲が分からない場合は、棒や札などを活用して利用者が分かるように配慮している。 ・敷地が広いので、数カ所にトイレを設置している。									
作業内容	培土	播種	かん水	間引き	出荷	作業上の工夫点等				
職員(人)	3	2	3	3	3	・通路の確保や片付けを行っている。 ・夏場はビニールハウスに寒冷紗を設置し作業場の温度を調整している。 また、扇風機を使用し、休憩も多く取るよう配慮している。				
利用者(人)	11	3	1	4	0					
役割	◎	○~◎	○~◎	○	○					

注「◎」は主担当、「○」は補助者である。

農福連携の効果とポイント

- ①旧農業試験場から引き継いだ圃場や施設を活用し、多様な取組みにより通年作業を確保している。A型事業では原価のかからない委託清掃作業も行っており、こだわり商品の販売との組み合わせにより、経営改善を図ってきた。
- ②ハム製造は、名店「三田屋本店」による技術支援、その後の試行錯誤を経て、良質な製品を維持しており、リピーターの確保、積極的な販路開拓、新製品の開発などにより収益を上げている。また、食肉加工に知識のある職員を配置させ、ハサップ(HACCP)研修等に参加させるなど、人材の育成・確保にも取り組んでいる。その

成果は、利用者特性への理解や個々の特性を活かした適切な作業の提供、業務分担にも繋がっている。圃場作業では、利用者用にワイヤーの草刈り機を準備するなど、安全性に配慮した農機具を選定している。
③対人関係には特に配慮しており、作業場所や休憩場所を分離し、各々が心地よい環境で活動できるよう努めている。トイレは敷地内に数カ所設置されている。
④敷地が広い分、通所するにはやや困難な場合もあるが、送迎車を活用して対応している。敷地内のグループホームから7名がヴィレッジ興産を利用しており、日中活動の場となっている。

障害のある方たちが農業の現場で生き生きと活躍されている様子を動画で紹介しています。



近日中に
公開予定



近日中に
公開予定

障害のある方でも農作業に取り組めるよう作業マニュアル動画を作成しました。



二次元コードから視聴できます。

農福連携に関するお問い合わせ

岡山県農福連携サポートセンター

〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ1階
TEL:086-222-0300

岡山県障害福祉課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4-6
TEL:086-226-7345

岡山県農産課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4-6
TEL:086-226-7420

中国四国農政局農村振興部農村計画課

〒700-8532 岡山市北区下石井1丁目4番1号
TEL:086-224-4511